

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	一般財団法人住友生命福祉文化財団	
施 設 名	住友生命いずみホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	32,703	(千円)
	公 演 事 業	28,746 (千円)
	人 材 養 成 事 業	824 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,133 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ルドルフ・ブッフビンダー ー リサイタル	令和4年2月14日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	404
		住友生命いずみホール		実績値	—※
2	モーツァルトシリーズ① クリスティアン・ベザイ デンホウト&フライブル ク・バロック・オーケス トラ	令和4年3月16日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	433
		住友生命いずみホール		実績値	—※
3	モーツァルト・シリーズ ② ハーゲン・クアルテ ット	令和3年10月19日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	462
		住友生命いずみホール		実績値	—※
4	いずみシンフォニエッタ 大阪 第46回定期演奏会	令和3年7月10日	出演：飯森範親(指揮)小松亮太(バンドネオン)、梅津碧(ソプラノ)、大西宇宙(バリトン) 曲目：ピアソラ：バンドネオン協奏曲、ツェムリンスキー：叙情交響曲 他	目標値	346
		住友生命いずみホール		実績値	372※
5	モーツァルト・シリーズ③ 神尾真由子と仲間たち	令和3年8月6日	出演：神尾真由子、コハーン・イシュトヴァーン(クラリネット)、木川博史(ホルン) 他 曲目：モーツァルト：クラリネット五重奏曲 K.581、ホルン五重奏曲 K.407、弦楽五重奏曲 K.516	目標値	462
		住友生命いずみホール		実績値	371※
6	モーツァルト・シリーズ④ 大阪フィルハーモニー交 響楽団	令和3年9月3日	出演：井上道義(指揮)、工藤重典(フルート※)、吉野直子(ハープ) 曲目：モーツァルト：フルートとハープのための協奏曲 K.299、フルート協奏曲 K.314、交響曲 第29番 K.201	目標値	450
		住友生命いずみホール		実績値	302※
7	モーツァルト・シリーズ⑤ 歌曲のタベ	令和3年10月19日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	375
		住友生命いずみホール		実績値	—※
8	フランス・オルガン音楽シ リーズ①ミシェル・ブヴァ ール	令和3年11月6日	曲目：フランク：コラール第1番ホ長調、ヴィエルヌ：ウエストミンスターの鐘、デュリュフレ：アランの名による前奏曲とフーガ他	目標値	404
		住友生命いずみホール		実績値	324※
9	モーツァルト・シリーズ⑥ イザベル・ファウスト&イ ル・ジャルディーノ・アル モニコ	令和3年11月20日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	462
		住友生命いずみホール		実績値	—※
10	いずみシンフォニエッタ 大阪 第47回定期演奏会	令和4年2月5日	出演：飯森範親(指揮)、小菅優(ピアノ) 曲目：坂田直樹：残像の器(委嘱新作)、バルトーク(川島素晴編)：管弦楽のための協奏曲、西村朗：ピアノ協奏曲《シャーマン》	目標値	318
		住友生命いずみホール		実績値	305※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青少年のための現代音楽演奏講座	令和3年8月16日 令和3年8月17日 令和3年8月18日 令和3年8月19日	講師：川島素晴（作曲家） 演奏講師：佐藤一紀（ヴァイオリン）、 上森祥平（チェロ）、安藤史子（フルート） 上田 希（クラリネット）、沓野勢津子（パーカッション）、碓山典子（ピアノ） 受講生：長井リッキー祐一、吉澤実佑、茶木修平（打楽器）、中村淳（フルート） 内容：講師と合同演奏による公開レッスン3回、成果発表会リハーサル、成果発表会。	聴講7名 ×3日間 /WEB聴講のべ80名 /成果発表会100名	聴講：のべ15※ /ウェブ聴講：のべ10 /成果発表会来場者41 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	モーツァルト・レクチャー・コンサート	令和3年4月23日	出演：堀朋平（お話）、久元祐子（ピアノ、お話） 曲目：モーツァルト：ピアノ・ソナタ K.279、K.311、ピアノ幻想曲 K.475、弦楽五重奏曲 K.516 他。「緩徐楽章」を軸にモーツァルトの作品の変遷をわかりやすく解説。	目標値	410
		住友生命いずみホール		実績値	169※
2	いずみ子どもカレッジ 2021 スギテツの音楽じっけん室	令和3年8月3日	出演：スギテツ／杉浦 哲郎（ピアノ・作曲・編曲）、岡田 鉄平（ヴァイオリン） 曲目：葦笛の“おどるポンポコリン”、剣のずいずいずっころばし、犬のおまわりさんの運命ほか	目標値	410
		住友生命いずみホール		実績値	166※
3	夢コンサート	令和3年10月14日	出演：藤岡幸夫（指揮）、都築由美（司会）、関西フィルハーモニー管弦楽団 曲目：フンパーディンク：《ヘンゼルとグレーテル》前奏曲、バルトーク：ルーマニア民俗舞曲、ドヴォルザーク：交響曲第8番	目標値	600
		住友生命いずみホール		実績値	171※
4	フランス・オルガン音楽 レクチャー	令和3年11月5日(変更)※	出演：ミシェル・ブヴァール（お話、パイプオルガン）、ブヴァール康子（通訳） ルネサンス期から現代にわたるフランスのオルガン音楽についての講義と演奏。	目標値	410
		住友生命いずみホール		実績値	244※
5	住友生命いずみホール音楽講座	令和4年1月19日	出演：西村朗（お話）、小栗まち絵（ヴァイオリン）、碓山典子（ピアノ）、古部賢一（オーボエ）、上田 希（クラリネット）、東口泰之（ファゴット） 曲目サン＝サーンス：クラリネット・ソナタ op.167、オーボエ・ソナタ op.166、ファゴット・ソナタ op.168、序奏とロンド・カプリチオーソ op.28 ほか	目標値	491
		住友生命いずみホール		実績値	385

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>「地域のニーズ＝地域文化の拠点」として、ミッション「世界とのドア」「地域とのつながり」を実現するべく、令和3年度は公演事業（10）、人材養成事業（1）、普及啓発事業（5）を計画した。新型コロナウイルスの感染状況が好転せず、当初の予定通りの開催はできなかった。特に、公演事業の半数が外国人アーティストの来日が叶わず、公演延期などの対策をとるも、やむなく中止となった（公演事業番号1, 2, 3, 7, 9）。このうち、「モーツァルト至純の音」シリーズ4公演がふくまれているのは痛手であった。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大状況の影響で制約の多い中ではあったが、入場定員の制限や、感染拡大予防対策を講じて開催した。しかし、社会情勢を踏まえ、広報活動を控えざるを得ず、結果として多くの公演で入場目標を下回った。開催した事業は一定の目標を達成したと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none">● 公演事業では大阪、関西ゆかりのアーティストの公演を軸にした事業を中心に、大阪からの音楽文化発信に寄与することができたこと。● 人材養成事業では、次世代の演奏家に学びの機会を提供できたこと。● 普及啓発事業では、幅広い方々にクラシック音楽に親しみ、知見を広げる機会を提供することができたこと。 <p>これらを勘案すると、前年度に続き、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた年度ではあったが、当助成の対象公演を中心にミッション「世界とのドア」「地域とのつながり」を具体化することができたと考えている。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>住友生命いずみホールは民間ホールであるが「音楽による社会貢献」を理念に、設立以来一貫して「地域の公共財」として、中規模ホールの特性を活かした独自の事業を実施している。</p> <p>令和3年度は大阪府・市からそれぞれ、大阪府芸術文化振興補助金（公演事業番号5、人材養成事業番号1、普及啓発事業番号5）、大阪市芸術活動振興事業（公演事業番号4, 10）の対象事業として支援を受けた。このことは地域の文化拠点として、府・市の「文化振興計画」が指し示す将来像「文化自由都市大阪」実現の一翼を担っていることを評価して頂いていることを示していると考えている。</p> <p>また、民間財団（花王芸術・科学財団、三菱UFJ信託芸術文化財団、野村財団、日本室内楽振興財団）からも助成を受けており、「世界とのドア」「地域とのつながり」をミッションに掲げた当ホールの事業を評価していただいていることの証左と考えている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

新型コロナウイルスの感染状況が収束せず、制約の多い中ではあったが、事業それぞれの目標は可能な限り達成したと考えている。

【公演事業】「大阪、関西のクラシック音楽文化に寄与する」とした目標のもと、独自企画の発信、大阪、関西ゆかりのアーティストの公演を通じて大阪からの音楽文化の発信に努めた。

申請時に設定した指標の達成には、新型コロナウイルス感染状況が大きく影響した。不要不急の外出自粛が求められる社会情勢のもと、入場者数

が大きく減じた（指標①、⑥）。実施できない公演が全事業の1/3（公演事業5公演を含む）となり、告知活動を見越して設定した指標②、③は残念ながら未達成となっている。直接の音楽発信に関わる指標④、⑤は達成した。

		達成状況	目標値	実績
指標①	入場者数（合計／平均）	△	4578／416	1674／334
指標②	新聞雑誌記事数	△	113～124	98
指標③	twitter（フォロワー数／インプレッション平均）	○	3000／2800	2891／2951
	Facebook（フォロワー数）	△	1300	1047
指標④	YouTube（チャンネル登録者数／再生回数平均）	◎	450／2000	598／2526
指標⑤	フレンズ会員チケット購入率	◎	50%	55.40%
指標⑥	団体幹旋の占率	△	15%	8.78%

【人材養成事業】7名の応募者から選抜した4名の受講者に対し、きめ細やかな指導と助言の機会を設けることができ、指導陣、受講者とも非常に有意義であったと述べている。所期の目的である、「次世代演奏家の育成」については十分に達成できたといえる。一方、レッスン聴講生はのべ15名で、指標とした20名をやや下回った（申し込み数は26名で指標に到達してる）。成果発表会は41名（申込数47名）と指標の半数未満の入場となった。開催日程8月中旬は新型コロナウイルス感染拡大の第5波がピークに向かう時期であったことの影響が大きかったと考えている。

事例の少ない形態の演奏講座を広く知らせるため、SNSを中心に事前・事後の告知活動に取り組んだ。オウンドメディア活用指標としたツイッターの平均インプレッションは指標を上回っている。

	オルガン					2021年度／現代音楽演奏			
	2010年度	2011年度	2016年度	2019年度	2020年度	設定指標	実数（応募）	達成度	
(指標①) 受講生	10	5	4	4	5	4～5	4(7)	◎	
(指標②) 聴講生	109	60	88	119	19	20	15(26)	◎	
(指標③) 聴講（発表会）						96	100	41(47)	△
(指標④) ウェブ聴講（講座）／11月末現在						97	80	10(300)	△
(指標⑤) ウェブ聴講（発表会）						300	300	(実施せず)	—
						3569	2800	3428	◎

（さらに当事業に限定した場合は7678となり、多くの方に関心を持っていただけたと考えている。）

オンラインを活用した講座の事後聴講については伸び悩んだ。有料であることや、聴講時間の長さ・内容の高度さが一因と考えている。今度同様の取り組みの際の課題としたい。

【普及啓発事業】①クラシック音楽文化のすそ野を広げる、②子どもたちの鑑賞・体験機会の拡充、③障がい者の社会参画を目標に開催。体験プログラムの取りやめなどの制約はあったが、すべての事業を開催できた。入場者数制限の影響で指標としていた入場目標は下回る結果となったが、いずれの公演も質の高い演奏を提供、コンサートとしても十分に満足いただける内容であった（事業番号4、5ではアンケートを実施、およそ8割が公演の内容に満足であると回答。事業番号1では来場者への聞き取りを実施した）。クラシック音楽を楽しむきっかけとなる機会を提供する、という普及啓発事業全体の目標は達成できたと考える。

(1) 169/410 (2) 166/410 (3) 171/200 (4) 244/410 (5) 385/564 (入場者数/定員)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

いずれの事業も数年前から綿密なリサーチと準備を重ねており、系統立てて公演を楽しんでいただく工夫を重ねている。中止せざるを得ない公演はあったが、計画発表に至るまでの準備は計画通りに進行した。

「年間テーマ」に位置付けた「モーツァルト 至純の音」(公演事業番号2, 3, 5, 6, 7, 9 / 普及啓発事業番号1)は、モーツァルトの多岐にわたる創作を様々な編成を軸に構成。特に若い世代の演奏家たちとの協働をテーマに準備を重ねた。ピリオド奏法に裏打ちされた演奏スタイルの紹介、若手演奏家の起用、そして国内外のアーティストが競演するシリーズが実現すれば非常に意義深いものとなったと考えているが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でこのうち4公演が中止せざるを得ない状況となったのは非常に残念なことである。

いずみシンフォニエッタ大阪の定期演奏会も常に数年先を見据えたりリサーチとプログラミングを行っている。具体的には、音楽監督、常任指揮者、演奏家の代表の合議制で、長期的なビジョンをもち、選曲を行っている。

ホールの重要な音楽的資産ともいえるパイプオルガンの活用は大きなテーマであり、長年取り組んだバッハ作品連続・全曲演奏会シリーズの経験と、オーバーホールを経てさらに楽器の特性を生かすべく、フランス・オルガン音楽を新たなテーマに加えた。バッハにも引き続き取り組むが、いずれも令和3年度より3年かけてシリーズとして取り組むために、数年前からリサーチを積み重ねてきたものである。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業支出については、一部、コロナウイルス対策のため予定より膨らんだ部分はあったが、基本的に計画通りであった。中止公演を除き、対要望時で96.33%~113.28%の範囲に収まっている。

収入については、要望当初より、コロナウイルス対策の可能性を考え、入場者数を減じて積算していたものの、実際は入場者数が目標を下回りった。チケット収入の目標達成の追及が今後の課題である。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

住友生命いずみホールでは、オープン以来、故・礪山雅音楽ディレクターとの協働で「現在」を支点に「音楽の原点」と「音楽の未来」を見据え、海外アーティストの紹介、研究を踏まえた知見を紹介する企画などに取り組んできた。「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」の助成事業を中心に、地域の文化拠点としての役割を果たすべく、現在は音楽アドバイザーの堀朋平がその役割を担っている。

令和3年度は「モーツァルト至純の音」シリーズ（公演事業2, 3, 5, 6, 7, 9／普及啓発事業1※公演事業2, 3, 7, 9は中止）、レジデントオーケストラであるいずみシンフォニエッタ大阪の活動（公演事業4, 10／人材養成事業1, 普及啓発事業5）を中心に事業を展開。以下に述べるような活動を通して、地域文化拠点の機能を発揮し、一定の役割を果たしたものと考えている。

令和3年度の中心的企画である「歌いつぐ、至純の音」は、現代のクラシック音楽を牽引する若い世代を中心とする旬のアーティストによる、最新のモーツァルト演奏をお届けするシリーズ。モーツァルトが受けた影響、与えた影響、そしてモーツァルト自身の作品の移り変わりを様々なジャンルで鑑賞いただくことを狙いとした。

堀氏のアドバイザー就任発表とともにシリーズ概要発表の記者会見を2月に実施、音楽の友4月号、MOSTLY CLASSIC5月号などの専門誌のほか、共同通信社の配信ニュースを通じ、全国にひろく紹介された。

「音楽の未来」を指向するいずみシンフォニエッタ大阪の活動もそれぞれ事前の広報活動に音楽監督の西村朗、常任指揮者の飯森範親が登場。各回のソリストとともに公演に向けてのインタビューに応じ、公演前に多数の記事がメディアに掲載され、公演を紹介していただいた。（事業番号4：2021.6.23 毎日新聞夕刊他、事業番号10：2022.1.28. 読売新聞夕刊他）。

また、一般に難解とされている「現代音楽」への興味を広げるため、いずみシンフォニエッタ大阪では定期演奏会に先立ってプログラムアドバイザー川島素晴による解説動画や、事前の曲目解説の公開を行っている。当日もプレコンサート、プレトークなど演奏者を身近に感じるイベントを開催するなど「現代音楽」にたいするハードルが低くなるよう工夫を継続している。2015年にYoutubeチャンネルを開設、委嘱新作を中心にアーカイブ配信を実施している。このほか、人材養成事業1, 普及啓発事業5の活動も、いずみシンフォニエッタ大阪の活動を広めつつ、ホールの特性を生かした地域の文化拠点としての活動である。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

当ホールでは、「公演の記事化→SNSで発信→公演・ホールの周知、公演来場」というサイクルを描く広報を実施している。また、SNSは常時稼働し、公演前にはアーティストの発信した情報のリツイートも併用するほか、公演終了後は来場者の感想のリツイートも実施している。公演事業、人材養成事業ではSNSフォロワー数、インプレッション平均を目標達成の指標にも導入しており、着実に数を伸ばしている。

前項に述べたように、今年度の中心的企画である「モーツァルト 至純の音」シリーズといずみシンフォニエッタ大阪を中心に事前記事のほか、批評記事も掲載された。

「モーツァルト 至純の音」の開催できた2公演（事業番号5, 6）はそれぞれ公演評が掲載された。事業番号5は『[...]（モーツァルトの思いに隠された）時代の痛みを的確にとらえ、同時に[...]現代をも照射するように響く[...]モーツァルトの新鮮な脈動との邂逅』（嶋田邦雄／音楽の友10月号）、事業番号6は『[...]当夜の演奏は、その音が言葉となって物語をしゃべる音楽だった[...]終わらない拍手とスタンディングオベーションが、言葉なしの会場からの返答だった』（小石かつら／2021.9.24.日本経済新聞夕刊）とそれぞれ評されている。

いずみシンフォニエッタ大阪も、公演評が多数掲載された。代表的なところで事業番号4は『[...]（ピアソラ作品の演奏は）西欧音楽の装いを何の違和感もなく漂わせながら、民族的エッセンスをより鮮明に放射していた。[...]（抒情交響曲について）西欧的な響きに曲想を展開しているところにも時代の翳が聞き取れる。意欲的な好企画』（嶋田邦雄／音楽の友9月号）、事業番号10は『（西村作品）独奏者の小菅優のキレのある打鍵が主題を耳奥に刻印し、[...]管弦楽とともにトランス状態へ誘っていく。その緊張の高まりと弛緩が圧巻。』（バルトーク作品）[...]飯森範親や各奏者の職人的技芸が一層映えるものとなった』（能登原由美／音楽の友4月号）と評されている。

新型コロナウイルスの感染状況の落ち着きを踏まえ、下期より来場者へのアンケートを再開した（公演事業番号8, 10、普及啓発事業4, 5が該当）。アンケート用紙のほか、ウェブ（Googleフォームを活用）での回答も受け付けている。回収率は回を追うごとに向上している。80%超の回答者が公演内容について「大変満足」と回答。具体的な感想や意見も活発に寄せられている。

『生演奏で聴く機会が多くなかったフランスのオルガン音楽を体系的に聴くことができ、大変楽しかった。以前バッハのプログラムも聴きましたが、今回はオルガンの多彩な音色に驚き、圧倒されました』（公演事業番号8）、『初めてISOの演奏会に来たが、期待以上の魅力的な作品と演奏だった。』『リハーサル見学やYouTubeなどでの事前解説など、楽曲への理解を深める機会がたくさんあり、コンサートを一層楽しめました』（同10）といった感想が寄せられている。

今年度の人材養成事業1に先立つ昨年度の人材養成事業（作曲講座）受講生がフランスへの留学を決めることとなった、音楽文化の時代の担い手の育成については長いスパンで見ると必要もあると思料する。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

1. 事業運営・経営戦略

当ホールの目的は「クラシック音楽の普及等を通じて音楽文化振興に貢献すること」であり、「世界とのドア」と「地域とのつながり」というミッション実現のため事業運営を行っていくことは不変である。そのために地域のニーズを汲み取り、芸術性を高めるため不断の努力を続けている。

上記実現のためには安定的な財務基盤が必要であるが、住友生命からの毎年の財団への寄付金 385 百万円（当ホール分見合いとして 199 百万円）が収入の約半分を占める安定基盤である。令和 2 年度よりホール名を「住友生命いずみホール」に改称し、住友生命との強固な連携を対外的に打ち出している。事業収入、貸ホール収入、協賛金の増収、ブランドを高めるため住友生命との連携を深める取組みを継続している。

地域のニーズを汲み取り、芸術性を高めていくことが、事業収入、貸ホール収入や有料会員会費の増収につながり、併せて、本助成金、政府・自治体や民間団体の助成金・補助金の実施主旨に応えることになると考えている。ただし、お客様へのアプローチ方法等、PDCA サイクルの中で絶えず戦略の見直しを行っていく。

2. 人事戦略

財務基盤と人材が事業運営のための両輪である。そのために安定雇用（終身雇用）を前提とし、職員 27 名中 19 名が直接雇用・正規雇用職員である。平均年齢 45 歳、平均勤続年数 17 年、長期でキャリアパスを築ける仕組みになっている。一方で内向きの業務遂行となるリスクもあり、社外研修への参加、社外団体との交流を継続、若手の登用、新規採用も検討している。大阪音楽大学への講師派遣等も職員のスキルアップにつながっている。

新型コロナウイルスの影響を受け、業務が現場主体でありながら政府のテレワーク要請にいち早く応え、かつ職員の安全安心のため在宅勤務可能なシステム環境を整え、現在も継続している。

3. ネットワーク

劇場・音楽堂関係団体、公立文化施設協会、姉妹ホール、教育機関等のネットワークを有しているが、新型コロナウイルスの影響を受けて社外との接触を避ける運営を行っている。令和 3 年度は大阪音楽大学（ミュージック・コミュニケーション学科「音楽ホール運営論」）の講師として職員派遣を再開した。

4. PDCA

令和 2 年度新設した営業部と、企画部で連携し、「DX を用いた顧客とホールの新しい接点作り」を軸に販売戦略を練り、日々見直している。アーカイブ配信の充実、ホームページの改修、オンライン入会システムの構築、チケット販売システムの改修、動画配信システムの構築に着手している。

上記DXのほか、調査・研究なども含め「コロナ禍からの再生」をテーマに事業に取り組んでいくことで持続的な発展が得られると考えている。